

Ⅳ 調査結果の要約

Ⅰ. ラグビーワールドカップ誘致について

○近鉄花園ラグビー場での観戦経験は、1割弱

近鉄花園ラグビー場でのラグビーの試合の観戦経験は、「観戦したことはない」が 77.8%と最も高く、次いで「あまり観戦しない」が 11.9%となっている。

観戦したことがある人（「よく観戦する」＋「ときどき観戦する」）は 9.8%となっている。

○ラグビーワールドカップの誘致を積極的に推進すべきは、約7割半

近鉄花園ラグビー場へのラグビーワールドカップへの誘致を積極的に推進すべきであるかは、「どちらかといえばそう思う」が 38.5%と最も高く、次いで「そう思う」が 35.6%、「そう思わない」が 13.8%、「どちらかといえばそう思わない」が 10.0%となっている。

積極的に推進すべきとする人（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は 74.1%となっている。

○ラグビーワールドカップの誘致の意味は、「東大阪市の知名度アップ」が6割強（複数回答）

東大阪市にラグビーワールドカップを誘致する意味（複数回答）は、「東大阪市の知名度アップ」が 61.2%と最も高く、次いで「観光などの経済効果」が 36.4%、「東大阪市のスポーツ文化の振興」が 32.2%、「道路など都市基盤施設の整備」が 21.2%、「治安対策設備（防犯カメラや街灯など）の充実」が 20.3%となっている。

○ラグビーワールドカップの誘致の進め方は、「行政が中心となり市民と連携して」が5割半

ラグビーワールドカップの誘致の進め方は、「行政が中心となり、市民と連携して進めるべき」が 56.9%と最も高く、次いで「わからない」が 17.7%、「市民が中心となり、行政と連携して進めるべき」が 12.3%となっている。

○ラグビーワールドカップの誘致事業への関わりの希望者は、2割半

ラグビーワールドカップの誘致事業への関わりは、「どちらかといえば関わりたくない」が 45.5%と最も高く、次いで「まったく関わりたくない」が 26.9%、「どちらかといえば関わりたい」が 22.0%、「積極的に関わりたい」が 3.8%となっている。

関わりを希望する人（「積極的に関わりたい」＋「どちらかといえば関わりたい」）は、25.8%となっている。

II. “ねこ”の飼育について

○ “ねこ”を飼っているのは、1割弱

“ねこ”の飼育は、「飼っている」は7.3%、「飼っていない」が92.2%となっている。飼育されている“ねこ”は、メスが77世帯で合計126匹、オスが58世帯で合計80匹であり、合わせて206匹が飼育されている。

また、メスで不妊手術されているのは107匹（処置率は84.9%）、オスで去勢手術されているのは68匹（処置率は85.0%）となっている。

▽飼育されている“ねこ”の飼育場所は、「屋内のみ」が7割半

飼育場所は、「屋外には出さず、屋内のみで飼っている」が75.8%と最も高く、次いで「ねこが自由に家に入出入りできるようにしている」が11.7%、「飼い主がねこの外出を管理している」が10.8%、「屋内には一切入れず、屋外のみで飼っている」が1.7%となっている。

▽飼育されている“ねこ”のトイレは、「屋内のねこ用」が8割半

“ねこ”のトイレは、「屋内のねこ用トイレでさせている」が86.7%と最も高く、次いで「屋内のねこ用トイレなどと庭などの両方でさせている」が10.0%、「特に何も用意せず、外で自由にさせている」が3.3%となっている。

▽“ねこ”の迷子札は、「首輪も何もつけていない」が5割半

“ねこ”の迷子札は、「首輪も何もつけていない」が55.0%と最も高く、次いで「首輪だけをつけている」が28.3%、「首輪に迷子札をつけるか、首輪に飼い主の名前や連絡先を書いている」と「その他」がともに8.3%となっている。

▽“ねこ”の行方不明の際の対応は、「すぐに近所を探すとともに、保健所動物指導センターなどへ問い合わせる」が約5割

“ねこ”が行方不明の際の対応は、「すぐに近所を探すとともに、保健所動物指導センターなどへ問い合わせる」が48.3%と最も高く、次いで「戻るまで2~3日様子を見る」が19.2%、「その他」が15.8%、「戻るまで、1週間程度様子を見る」が8.3%、「何もせず、帰ってくるのを待つ」が5.0%となっている。

○ “ねこ”の不妊・去勢手術は、「必要に応じて実施すべき」が8割強

“ねこ”の繁殖制限としての不妊・去勢手術は、「必要に応じて手術を実施すべき」が82.6%と最も高く、次いで「ねこにとっても苦痛や危険が伴うので、むやみに実施するべきではない」が5.8%、「手術は費用がかかるから困難」が3.3%、「その他」が1.6%となっている。

○ “ねこ”の不妊・去勢手術費用は、「飼い主の責任」が7割半

“ねこ”の不妊・去勢手術の費用は、「飼い主の責任において実施すべき」が76.4%と最も高く、次いで「公費助成すべき」が12.9%、「助成ではなく、啓発活動に使った方がよい」が2.7%、「その他」が1.9%となっている。

○ “ねこ”による迷惑は、「ふん尿」が5割、「鳴き声」が4割半（複数回答）

“ねこ”による迷惑の経験（複数回答）は、「ふん尿」が50.5%と最も高く、次いで「鳴き声」が45.2%、「植木・庭・ごみを荒らされた」が27.1%、「その他」が10.6%となっている。

○ “ねこ”による迷惑を減らすための今後の取り組みは、「不妊・去勢手術の奨励」が5割強（複数回答）

“ねこ”による迷惑を減らすための今後の取り組み（複数回答）は、「不妊・去勢手術の奨励」が52.0%と最も高く、次いで「屋内飼育の推進」が49.4%、「名札など所有者明示の啓発」が42.2%、「自治会など地域住民全体の協力を得た取り組み」が24.1%となっている。

Ⅲ. 家庭ごみの有料化について

○家庭ごみの有料化については、「不法投棄が増加する可能性がある」が7割弱（複数回答）

家庭ごみの有料化についての考え（複数回答）は、「不法投棄が増加する可能性がある」が68.4%と最も高く、次いで「ごみ処理は税金でまかなわれるべきで、有料化すべきではない」が44.6%、「過剰包装をなくすなど、生産者責任の拡大や小売店への指導を先に行うべきである」が35.4%、「ごみを出さないとする意識が働き、分別が徹底され、リサイクルが推進される」が29.9%、「過剰包装を断るなど、ごみの発生抑制につながる」が28.0%、「ごみ減量・リサイクルの動機付けになる」が21.9%となっている。

○家庭ごみの有料化の実施対象は、「大型ごみ」が5割（複数回答）

家庭ごみの有料化を実施する場合に対象として妥当と思うもの（複数回答）は、「大型ごみ（現在は申込制）」が50.9%と最も高く、次いで「わからない」が17.1%、「不燃の小物（燃えない小物）」が14.3%、「蛍光灯・乾電池」が13.6%、「家庭ごみ（可燃物）」が11.6%となっている。

○家庭ごみの有料化の場合の対応は、「トレーや牛乳パックなどをスーパーなどの店頭回収に出す」が5割半（複数回答）

家庭ごみが有料化された場合の対応（複数回答）は、「トレーや牛乳パックなどを、スーパーなどの店頭回収に出す」が55.0%と最も高く、次いで「新聞などの古紙を、町内会や子ども会で行っている資源回収に出す」が53.0%、「レジ袋や余分な包装は断る」が39.8%、「使い捨て商品を避け、繰り返し使える製品や詰め替え製品を選ぶ」が37.3%、「ごみの分別をより一層徹底する」が37.0%、「食材の買い過ぎ、料理の作り過ぎをせず、生ごみを出さない」が25.9%となっている。

○家庭ごみの処理手数料は、「30円ぐらい」が4割、「50円ぐらい」が1割半

家庭ごみが有料化された場合のごみ処理手数料の適正な負担額は、「30円ぐらい」が40.1%と最も高く、次いで「わからない」が17.4%、「50円ぐらい」が15.6%、「その他」が13.3%、「100円ぐらい」が7.2%となっている。

○家庭ごみの有料化で考慮すべきは、「市民の理解と協力を得ること」が6割（複数回答）

家庭ごみの有料化を実施する場合に考慮すべきこと（複数回答）は、「市民の理解と協力を得ること」が60.5%と最も高く、次いで「不法投棄が増えることへの対策を打ち出すこと」が59.9%、「手数料収入の使いみちを明確にすること」が58.2%、「手数料の負担額の妥当性を示すこと」が42.2%、「ごみ減量・リサイクル効果の検証を明確にすること」が34.0%、「子育て世帯や高齢者介護世帯などへの負担を軽減すること」が30.2%、「ごみ減量・リサイクルに取り組まない人への対策を打ち出すこと」が28.5%となっている。

IV. こころの健康について

○ストレスを感じているのは、約6割半

ストレスを感じる経験は、「時々感じる」が49.4%、「あまり感じない」が29.4%、「ほとんどいつも感じている」が15.3%、「まったく感じない」が3.3%、「その他」が0.5%となっている。

ストレスを感じている人（「ほとんどいつも感じている」＋「時々感じる」）は、64.7%となっている。

▽ストレス時の状態は、「イライラ」が7割弱、「不眠・食欲不振」が3割半（複数回答）

ストレスを感じた時の状態（複数回答）は、「イライラしてしまう」が69.5%と最も高く、次いで「眠れなくなったり、食欲がなくなったりする」が35.6%、「仕事や家事が手につかなくなる」が14.4%、「アルコールでごまかそうとする」が13.6%、「特にない」が7.6%となっている。

▽ストレスに関する相談相手は、「家族や親せき」が約4割半（複数回答）

ストレスでつらい時の相談相手（複数回答）は、「家族や親せき」が43.5%と最も高く、次いで「友人や知人」が43.4%、「誰にも相談しない」が25.9%、「職場の上司や同僚」が13.1%、「かかりつけ医療機関の職員」が4.1%となっている。

○自殺については、「自殺しようとする人は精神的に追い込まれている」が5割半（複数回答）

自殺について日頃感じていること（複数回答）は、「自殺しようとする人は精神的に追い込まれている」が55.3%と最も高く、次いで「もっと社会的な対応が必要」が36.0%、「自殺は防ぐことができるはずだ」が34.8%、「死にたいと思う気持ちがわからない」が10.8%、「自分には関係ないこと」が6.9%となっている。

○自殺対策基本法の認知度は、2割半強

「自殺対策基本法」については、「知らない」が71.2%、「名前は聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」が25.4%、「内容までくわしく知っている」が1.0%となっている。

認知度（「内容までくわしく知っている」＋「名前は聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」）は26.4%となっている。

V. 水道事業の広報活動について

○本市の水道に関する情報の入手方法は、「市政だより」が5割半（複数回答）

本市の水道に関する情報の入手方法（複数回答）は、「市政だより」が54.5%と最も高く、次いで「特になし」が39.6%、「水さき案内（上下水道広報紙）」が6.4%、「市のホームページ」が2.1%、「ケーブルテレビ」が1.7%となっている。

○広報紙『水さき案内』の読書度は、2割弱

上下水道の広報紙「水さき案内」の読書度は、「知らない」が60.4%と最も高く、次いで「ほとんど読まない」が18.8%、「時々読んでいる」が15.0%、「必ず読んでいる」が3.5%となっている。

読書度（「必ず読んでいる」＋「時々読んでいる」）は18.5%となっている。

○上下水道局のホームページの認知度は2割弱であり、閲覧しているのは少数

上下水道局のホームページの閲覧状況は、「知らない」が79.8%と最も高く、次いで「知っているが、見たことはない」が13.5%、「時々見ている」が3.8%、「よく見ている」が0.5%となっている。

認知度（「よく見ている」＋「時々見ている」＋「知っているが、見たことはない」）は17.8%であり、閲覧したことがある人（「よく見ている」＋「時々見ている」）人は4.3%となっている。

○本市の水道で知りたいことは、「水道料金について」が5割半（複数回答）

本市の水道に関して知りたいこと（複数回答）は、「水道料金について」が55.2%と最も高く、次いで「震災対策」が29.9%、「本市水道水の水源」が25.2%、「水道事業の経営状況」が21.6%、「漏水対策」が15.0%となっている。

VI. 本市における定住意向について

○まちづくりの満足度は、“男女が共に生き生きと暮らせる”が2割弱、“安心して医療が受けられる”が3割強、“生活衛生が行き届いている”が2割半

“男女が共に生き生きと暮らせるまちづくりが進められている”の『満足度』（「とてもそう思う」＋「そう思う」＋「まあそう思う」）は、18.3%となっている。

“安心して医療が受けられるまちづくりが進められている”の『満足度』は31.2%となっている。

“生活衛生が行き届いたまちづくりが進められている”の『満足度』は24.8%となっている。

○本市の特性や誇りは、「モノづくりのまち」が約5割、「豊かな自然」と「都心に近い」が3割強（複数回答）

東大阪市の特性や誇りと思えるもの（複数回答）は、「人工衛星が作れるモノづくりのまち」が49.5%、「生駒山など豊かな自然」が32.6%、「都心に近い」が32.3%、「司馬遼太郎記念館」が23.3%、「鉄道などの充実した公共交通」と「近鉄花園ラグビー場」がともに19.6%、「秋祭りなどの伝統行事」が10.8%、「50万人を超える人口規模」が9.0%となっている。

○今後の定住意向は、「住み続けたい」が6割半

東大阪市での今後の定住意向は、「はい（住み続けたい）」が65.8%、「いいえ（住み続けたくない）」が28.4%となっている。

▽今後住み続けたくないと思う理由は、「治安が悪い」が4割強、「緑や自然環境が少ない」が3割強（複数回答）

東大阪市に今後住み続けたくないと思う人の理由は、「治安が悪い」が42.9%と最も高く、次いで「まわりに緑や自然環境が少ない」が31.4%、「行政運営に不満がある」が26.9%、「公園、道路、公共交通など都市基盤が不十分」が24.8%、「保健・医療、福祉の施設や公共サービスが不十分」が20.7%となっている。

○定住のために市が力を入れるべきことは、「安全安心のまちづくり」が5割強、「医療の確保と健康づくり支援」が2割半（複数回答）

誰もが住み続けたいまちにするために市が力を入れるべき取り組み（複数回答）は、「災害や犯罪に対する安全安心のまちづくり」が52.7%と最も高く、次いで「医療の確保と健康づくりの支援」が26.2%、「効率的で健全な行財政運営」が22.6%、「商工業の経済・中小企業の活性化」が20.8%、「障害者や高齢者が住みよいまちづくり」が19.0%となっている。